



追手門学院大学附属図書館 『宮本輝ミュージアム』

2008年、学校法人追手門学院は創立120周年を迎えました。『宮本輝ミュージアム』は、学院の創立120周年記念事業の一環として、2005年5月追手門学院大学附属図書館の改修と同時に新設いたしました。

広く一般の方へも公開いたしますこのミュージアムは、本学文学部第1期卒業生であり、作家として活躍されている宮本輝氏の愛用品、直筆原稿など、数多くの資料を展示し、宮本輝氏の著作等を通して、図書館を利用される学生及び市民の方々に感動と共感の場を提供できることを願って開設いたしました。そして宮本輝氏の活躍とともに成長し続けるミュージアムでありたいと願っています。

『宮本輝ミュージアム』を通して、追手門学院大学が皆様にとって、より身近な存在となりましたら幸いです。

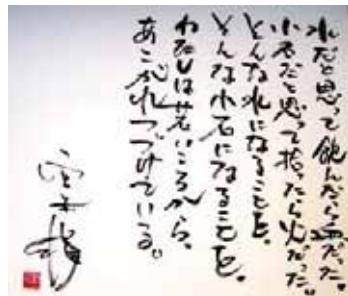
『宮本輝ミュージアム』展示品リスト

【東側】

◎年譜

◎自筆の詩（ガラス板）

《年譜下ガラスケース》



●広辞苑 ●インクと万年筆 ●直筆原稿（複製）「生きものたちの部屋（3）『インクと万年筆』」

●湯のみ ●懐中時計（芥川賞正賞） ●グラス ●小物入れのかご ●水差し ●墨、筆

●硯 ●自筆の書「正直であるということの凄さ」（複製）

○追手門学院大学第一期生卒業記念アルバム（在学中の写真）・第二期生卒業記念アルバム（茨木学舎全景）

○追手門学院大学三十年史 「創立三十周年を祝して（宮本輝）」

○読売新聞記事 昭和57年（1982）7月26日（月）夕刊 1面・3面 パネル

【北側・展示架】

① 作家活動のはじまり

1977年デビュー作「泥の河」と「螢川」を相次いで『文芸展望』に発表。「泥の河」で第13回太宰治賞、「螢川」で第78回芥川龍之介賞を受賞した。この2作は1978年に発表された「道頓堀川」とともに「川三部作」として著者の代表作となった。

『螢川』『道頓堀川』『川三部作 泥の河 螢川 道頓堀川』『幻の光』『星々の悲しみ』

② 初期の作品

芥川賞受賞後、肺結核を発病し、約2年間の療養を余儀なくされた。復帰後、旺盛な創作活動が開始される。

『ドナウの旅人（上・下）』 『錦織』と冒頭部分原稿（複製）

③ 初めての海外取材

1982年「ドナウの旅人」執筆取材のため、ドナウ川流域を訪問。以後、毎年のようにヨーロッパ諸国等へ取材旅行。

『異国の窓から』

④ 映画化された代表作

1982年「泥の河」が小栗康平監督によって映画化され、モスクワ国際映画賞銀賞ほかを受賞した。

以後、多くの作品が映画化、ドラマ化されている。

「優駿」競走馬の世界を描いた作品で、日本中央競馬会から第一回馬事文化賞を受賞。

1987年に吉川英治文学賞を受賞し、1988年映画化された。

『優駿（上・下）』 映画『優駿』DVDと映画パンフレット 映画『幻の光』 ビデオ

⑤ 海外を舞台にした作品

『愉悦の園』 タイを舞台にした作品。著者が最初に書いた小説「弾道」が作品の原型となっている。

⑥ 青春時代を描いた作品

『青が散る』と連載第1回冒頭部分原稿（複製） 新設大学に入学した椎名燎平はテニスコートのないテニス部に所属する。燎平の恋や友情、青春をテニスとともに描いた作品。

『春の夢』『二十歳の火影』

⑦ “父と子”を描くライフワーク『流転の海』

敗戦後の昭和22年、50歳で長男を得た松坂熊吾の半生を描く大河小説。1982年著者35歳の年に、全五部の予定で執筆が開始された。2009年『新潮』7月号より第六部「慈雨の音」の連載開始。

連載第1回冒頭部分原稿（複製）と『流転の海 第一部』（福武書店）

第一部『流転の海』 第二部『地の星』 第三部『血脉の火』 第四部『天の夜曲』

第五部『花の回廊』（新潮社）

⑧ 青春と読書

13歳の日、井上靖著『あすなろ物語』を読んで以後、読書に耽溺した。本や小説は、波間にただよう小舟のような、14歳から18歳までのよるべきない時代の支えのような存在であつただろう。

『本をつんだ小舟』思い出の作品と読書体験を記した作品。宮本輝編纂のアンソロジー集

⑨ 『川三部作』

筑摩書房 1985年刊。限定200部中の第187番

⑩ 作家 宮本輝を知る本

『新潮四月臨時増刊 宮本輝』新潮社 1999年4月刊

⑪ 「優駿」

連載第1回冒頭部分原稿（複製）

⑫ 海外に翻訳された作品

1986年の『泥の河』中国語版発行以後、中国語、フランス語、英語、ハングル語、ロシア語などへの翻訳書が多数刊行されている。

『彗星物語（上・下）』（原書 角川書店 1992年刊）とハングル語版（Koreaone Press 1993年刊）
訳者は金賢姫

⑬恋愛をテーマにした作品

『私たちが好きだったこと』

⑭「ドナウの旅人」以降の新聞連載（1）

『花の降る午後』角川書店 1988年刊（1985年7月～1986年2月『新潟日報』等に連載）

『海岸列車（上・下）』毎日新聞社 1989年刊（1988年1月～1989年2月『毎日新聞』連載）

『ここに地終わり海始まる』講談社 1991年刊（1990年3月～11月『福島民友』等に連載）

⑮「ドナウの旅人」以降の新聞連載（2）

『朝の歎び（上・下）』講談社 1994年刊（1992年9月～1993年10月『日本経済新聞』連載）

『人間の幸福』幻冬舎 1995年刊（1994年5月～1995年1月、『産経新聞』連載）

『草原の椅子（上・下）』毎日新聞社 1999年刊（1997年12月～1998年12月『毎日新聞』連載）

『約束の冬（上・下）』改訂版文藝春秋 2004年刊（初版2003年刊）（2000年10月～2001年10月『産経新聞』連載）

⑯阪神淡路大震災後の作品

作家自身もこの大震災によって被災した。震災の渦中、日々増大していく被害は、連載終盤を迎えていた『人間の幸福』最終章にも影響を与えた。

『森のなかの海（上・下）』震災当日の朝から始まる物語

⑰シルクロードへの旅

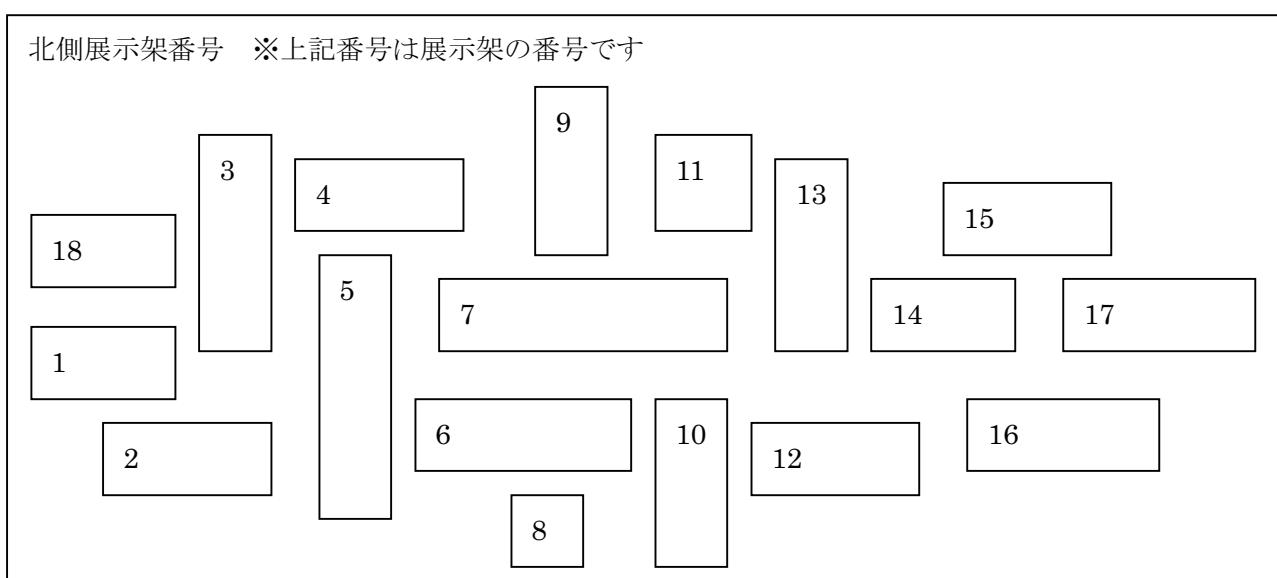
1995年5月、約1700年前に膨大な経典の漢語訳をなした鳩摩羅什^{クマラジュウ}の足跡を辿る40日間にわたるシルクロードの旅に出た。『ひとたびはポプラに臥す』旅の紀行文集

『星宿海への道』『胸の香り』シルクロードの旅に題材をとった短編「道に舞う」を収録。

⑱2005年ミュージアム開設以後の発表作品

『にぎやかな天地（上・下）』中央公論新社 2005年刊（2004年5月～2005年7月『読売新聞』連載）

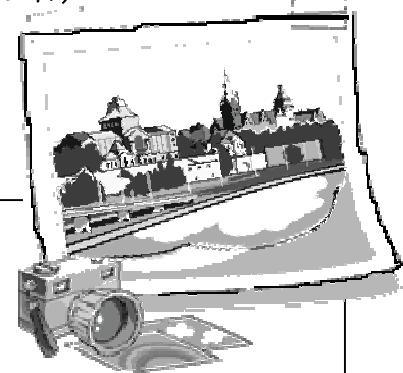
『骸骨ビルの庭』（上・下）講談社 2009年刊（2006年6月～2009年2月『群像』連載）



展示品リスト（展示期間 2010年5月22日～2010年9月9日）

■主人公たちの旅路をたどる特大タペストリー

主人公たちが歩いた旅路を、作品のあらすじ、風景画や写真、
作品中に登場する印象的な文章を交えた特大タペストリーでご紹介します。



【展示ケース内】

上段

- 単行本『ドナウの旅人』（上・下）（サイン入り）朝日新聞社 1985年6月刊
- 『ドナウの旅人』の取材旅行などに持っていたスーツケース
- 宮本輝氏取材旅行写真（提供：宮本輝氏）

<表面>

- 『ドナウの旅人』原稿（複製）
- 文庫本『ドナウの旅人』（上・下）新潮文庫 1988年6月刊
- 単行本『異国の窓から』光文社 1988年1月刊
- 文庫本『異国の窓から』角川文庫 1991年8月刊
- 文庫本『異国の窓から』文春文庫 1996年2月刊
- 文庫本『異国の窓から』光文社文庫 2003年1月刊

<裏面>

- 「異国の窓から」連載第1回初出雑誌『CLASSY』1984年6月号（創刊号）P.138-139 光文社（複製）
- 「異国の窓から」連載最終回掲載雑誌『CLASSY』1987年8月号 P.138-139 光文社（複製）
- 「『ドナウの旅人』宮本輝 ふたたびドナウへ（宮本輝筆）」
『週刊朝日』94巻42号（1989年9月29日発行）P.13-17 朝日新聞社（記事抜粋）
- 特集記事の扉写真-宮本輝氏『NEXT』1985年9月号 P.180 講談社（複製）
- 「ベストセラー作家の世界-宮本輝」『NEXT』1985年9月号 P.172-182 講談社
- 「彗星物語」連載第1回初出雑誌『家の光』1989年1月号 P.86-87 家の光協会
- 「彗星物語」TVドラマ台本（TBS／2007年12月3日放送）

■ 小説「ドナウの旅人」作品の紹介

- 作品紹介パネル
- 登場人物紹介パネル
- 「ドナウの旅人」一問一答パネル
- 全掲載回新聞切抜きファイル
(朝日新聞夕刊 1983年11月15日～1985年5月28日)

■「ドナウの旅人」舞台背景の紹介

- 当時の東欧諸国情勢パネル
- 「ドナウの旅人」展示関連資料（図書・AV資料）
- 「ドナウの旅人」「彗星物語」関連資料リスト

■ 宮本輝「ドナウの旅人」取材旅行写真パネル

- 西欧編
- 東欧編

宮本輝氏は、「ドナウの旅人」を執筆するにあたり

1982年10月に取材旅行として訪欧した際のプライベート写真。（写真提供：宮本輝氏）

■ 関連作品「彗星物語」紹介

- 小説「彗星物語」作品紹介パネル
- ドラマ「彗星物語」ポスター（TBSナショナルドラマスペシャル 2007年12月3日 21:00～放送）

「ドナウの旅人」展特別企画 ミュージアム×食堂コラボレーション

本学食堂にオリジナルメニューが登場！
主人公たちが訪れたドイツ、ルーマニアの
料理をアレンジしたものです。

詳細は、ミュージアム入口に設置している
チラシをご覧ください。
期間限定です！ぜひお楽しみください！！